

事務事業名		青少年まると博物館めぐり事業			☐ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間	予算科目 会計 款 項 目 事業 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成4 年度～) ☐ 期間限定複数年度 (計画期間) 年度～ 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入
	施策名	28 社会性豊かな青少年の育成				
	基本事業名	02 青少年育成のための連携強化と意識啓発				
根拠法令						
所属	部課名	教育委員会事務局生涯学習課				
	係名	中央公民館	電話内線	26-3166 432		

事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)
 主に小学校高学年を対象に、三陸地区の文化財・自然環境の学習や体験活動を通して、郷土を愛する心を育て、ふるさとに対する理解を深める事業。博物館の教育普及事業(地質観察会、海洋生物の観察会など)と連携して行っている。
 主な業務は次のとおり①博物館との企画打ち合わせ②下見③参加チラシの作成④参加者募集⑤事業実施
 事業費はなし。

全体計画 (※期間限定複数年度のみ)
 総投入量 (千円)
 事業費
 財源内訳
 国庫支出金
 都道府県支出金
 地方債
 その他
 一般財源 0
 事業費計 (A) 0
 人件費
 正規職員従事人数
 延べ業務時間
 人件費計 (B) 0
 トータルコスト(A)+(B) 0

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標									
① 手段 (主な活動) 前年度実績 (前年度に行った主な活動) 博物館学芸員を講師としてザクロ石探し、石みがきの体験を開催した。			⑤ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標)						
			名称						単位
今年度計画 (今年度に計画している主な活動) 東日本大震災の発生により、休止する。			ア 開催回数						回
			イ 参加児童数						人
			ウ 参加人数 (保護者を含む)						人
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 市内の児童 (低学年は保護者同伴)			⑥ 対象指標 (対象の大きさを表す指標)						
			名称						単位
			カ 市内児童数 (参加対象)						人
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか) 三陸地区の文化財、自然環境を学習、体験してもらう。 自分たちの住んでいるところを理解してもらう。			⑦ 成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標)						
			名称						単位
			サ 参加率(参加人数/対象児童数)						%
④ 結果 (基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 社会や地域のことを考えるようになってもらう。			シ						
			ス						

(2) 総事業費・指標等の推移										
			単位	年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
投入量	事業費	国庫支出金	千 円							
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	0	0	0	0	0	-	
		事業費計 (A)	千 円	0	0	0	0	0	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1	
		延べ業務時間	時 間	40	40	30	20	20	5	
		人件費計 (B)	千 円	160	160	120	80	80	20	
		トータルコスト(A)+(B)		千 円	160	160	120	80	80	20
⑤活動指標	ア	回	1	1	1	1	1	1		
	イ	人	21	27	5	12	29	20		
	ウ	人	21	57	5	20	41	67		
⑥対象指標	カ	人	1345	2541	1257	2284	2131	2044		
	キ									
	ク									
⑦成果指標	サ	%	1.6	1.1	0.4	0.5	1.4	1.0		
	シ									
	ス									

事務事業ID	1059	事務事業名	青少年まると博物館めぐり事業
--------	------	-------	----------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

平成4年度に、旧三陸町において「町をあるがまま、まると学びの博物館とし、自ら体験して学ぶ」という『ふるさとまると博物館の構想』のもと、青少年を対象に地域学習の一環として事業が始まった。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

平成4年度に始まったこの取り組みは、全町域に広がり、施設、自然、人など博物館の充実を図ったが、数年してこの博物館構想に係るもので残った事業が当事業のみとなった。

また、平成13年度に博物館のある大船渡市と合併したため、事業は縮小傾向となっている。平成17・18年度は市立博物館と共同で事業実施している。(平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う津波により、三陸公民館が甚大な被害を受けたため、平成23年度から事業を中央公民館で実施することになった。)

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

事業の参加者(児童)は毎回楽しく参加している。

2 評価の部 (SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☒ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) 市立博物館の教育普及事業では海辺の生物観察会や地質観察会を実施している。 ☒ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] 市立博物館と連携して実施することによって、より充実した内容となっている。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 事業費は0円である。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] 当日は参加人数に応じて、複数の職員で対応しているが、準備等については1名で行っているため、人件費の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] ⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] 市内の小学生を対象とし、費用負担もないため、公平である。

事務事業ID	1059	事務事業名	青少年まると博物館めぐり事業
--------	------	-------	----------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 多数の申込があり、キャンセル待ちもあったが、雨天のため延期した。翌週、強風のため石みがきは室内に変更して実施した。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☒ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 事業費もないため、類似事業を含めて事業を見直す必要がある。 (平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、事業を休止する。)		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者 生涯学習課長

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☒ 一部記述不足のところがある
☐ 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|---|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☐ 適切 | ☒ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

目的と手段の乖離がうかがえるので、事業のあり方を見直す必要がある。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

当面は継続して事務事業を実施するが、併せて事務事業のあり方を検討していく。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
 (廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項